



株式会社 オープンハウス 様

スマートフォンとクラウドサービスの導入を90日で実現！

Gluegent Gateで端末制御を実現しセキュアな環境でのクラウド利用を実現！

◇ Company Information



東京に、家を持つ。

**OPEN
HOUSE**

会社名：株式会社オープンハウス

設立：1997年9月

所在地：千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング 12階

事業内容

東京23区、川崎・横浜エリアなどに17カ所の営業センターを展開して不動産仲介事業を手がける、1997年創業の東証一部上場企業。

グループ会社を通じて不動産販売事業（戸建・マンション・不動産流動化）、および不動産金融事業も手がける。グループの総合力が強みだ。



Google Appsの導入と 同時にスマートフォン の導入

1997年9月に創業し、創業17年目で東証一部に上場した株式会社オープンハウスは、東京23区を中心に営業店舗を展開し、グループで戸建やマンションの販売も手掛ける。現在も成長を続け、売上高は1,700億円を超える。成長を続ける会社において、今後の成長に耐え得る情報プラットフォーム構築の必要性に迫られた同社は、既存のシステムをGoogle社が提供するクラウドサービス「Google Drive for Work」への導入を進めていた。

Google Drive for Workの導入と同時に、今まで利用していたフィーチャーフォンからiPhone6へのリプレイスも実施することとなっていた。そこで「許可したモバイル端末からのみGoogle Drive for Workなどのクラウドサービスを利用できるように管理するためのシングルサインオン（SSO）システム導入が必須であった」と言うのは管理本部 情報システム部 クラウド推進グループ課長の鈴木貴臣氏である。



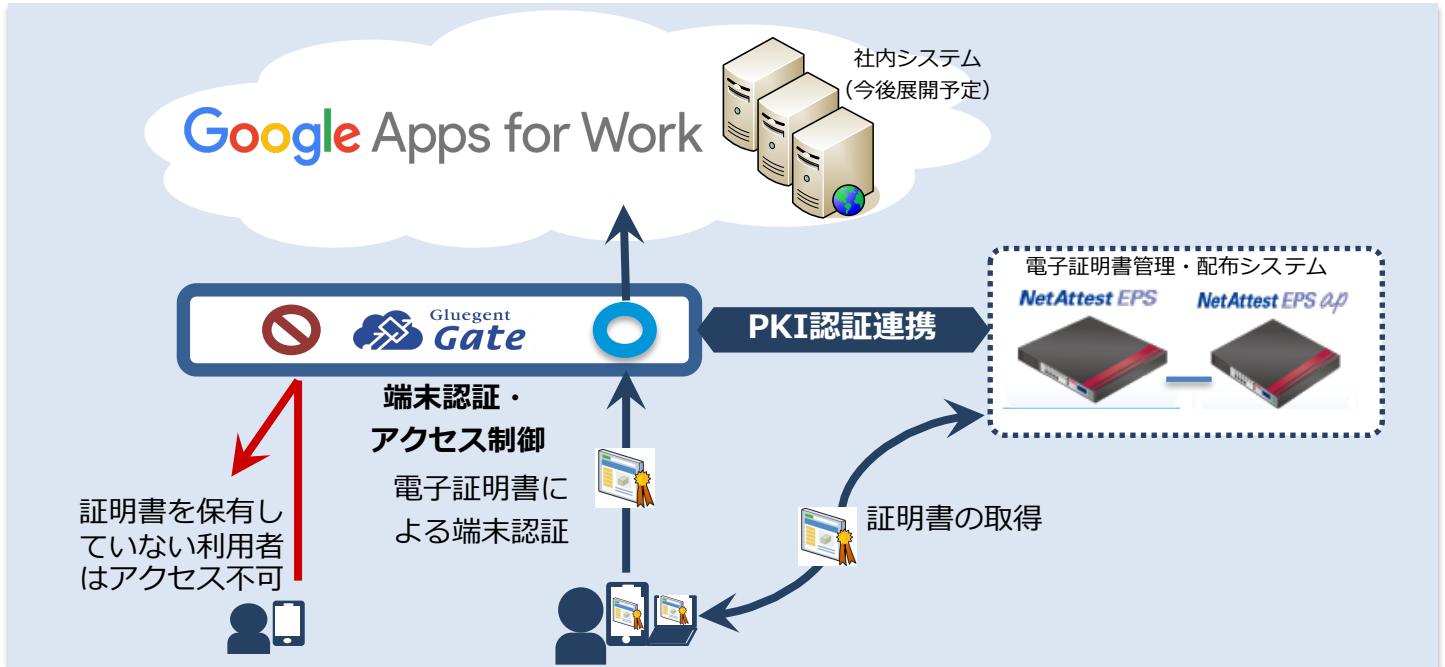
電子証明書と連携し たスマートデバイスの アクセス制御の導入

同社ではすでに、オフィスアプリケーションのクラウド化と800台を超えるiPhone6の導入に着手しており、またソリトンシステムズ社が提供する電子証明書管理・配布システム「NetAttest EPS」、「NetAttest EPS-ap」の導入を既に決めていた。「SSOサービスを決めるにあたって「NetAttest」との連携は必須要件として考えていた」と管理本部 情報システム部 クラウド推進グループ係長の土屋俊輔氏は語る。SSOサービス導入にあたり、複数のサービスを検討していった。「NetAttest EPS」との連携の検証を進めていく中で、それぞれのサービスは対応できることが確認出来た。その上でSSOサービスの機能比較を行っていたが、機能的な大きな差はなかった。



社内システムのアクセ ス制御にも対応した Gluegent Gateを採用

しかしながら最終的に様々な検討を行った結果、グルーゼント社が提供する「Gluegent Gate」に決定した。「Gluegent GateはGoogleだけではなく、社内システムなどの仕組みに対しても柔軟にSSO出来る製品であった。今後オフィスアプリケーションをクラウド化していき、外部からスマートデバイスを利用できるようにする計画の中でSAML対応したアプリケーションや代理認証を利用した社内システムへアクセスを考えるとGluegent Gateが最適であった」と鈴木氏は決定理由を語る。Gluegent GateはSAML対応しているシステム、サービスであれば追加してSSO連携ができるため、今後SFAなどの社内システムをクラウド化していく中で、この拡張性は大きな決定要因となった。また代理認証機能をもっており、SAML対応していない社内システムについてもURLをリダイレクトさせることでSSOをすることもできるため、クラウド化を進めていく同社の方向性においてもっともマッチしたサービスであった。



➡ 検討から導入まで3ヶ月で導入！

当初の計画ではGoogle Drive for Workの導入は、2015年9月の導入予定で進める予定であった。しかしながら「いままで利用していたシステムより機能がアップして大きな効果が望めることがわかったので、新人が入社した段階から使い始められるようにしよう」と決断。いいことは早くやる！そういった社風なのです。」と同グループの会見春香氏は述懐する。2014年の11月から次期グループウェアの検討をスタートし、12月にGoogle Drive for Work導入の決定と同時にGluegent Gateの導入も決定した。2015年1月からプロジェクトをスタートし、2月の末までに設定完了、3月から利用をスタートする運びとなった。「プロジェクト期間中は設定をしながら決めていく感じで、Google Drive for Workの導入支援を行ってもらったソフトバンクやグルージェントには、一緒にいてもらう形で進めていきました。」

と、同グループの土屋氏は語る。導入時にはトラブルに直面することが多々あった。「短い期間で進めていたので、導入時にトラブルに直面することは確かにあったが、グルージェントの担当者の方で即日対応を行ってもらい、解決してくれた。」と土屋氏は語る。

Gluegent Gateは、Google Apps for Workの導入と同時に利用開始しているが、特段トラブルもなく利用を続けている。

Gluegent Gateではユーザのログデータも取得が可能であり、かつiPhoneをはじめとしたスマートデバイス、PCも識別した形で認証情報の設定をかなり細かく設定できる場所は、運用上及びコンプライアンスの観点で非常に有効に活用ができる場所は大きなメリットとなっている。「我々のようにスマートデバイスと組み合わせてGoogle Drive for Workを利用する企業にとってGluegent Gateのようなサービスは必須のソリューションである」と鈴木氏は語る。

➡ 今後はGoogle以外のシステムへ展開

オープンハウスでは、今後Gluegent GateでSSOの利用範囲を広げていく予定をしている。社内のSFA、積算工程管理システムなどのシステムが稼働しているが、それぞれにID、パスワードが存在している。Gluegent Gateをセキュリティインフラ基盤とし、一つのID、パスワードで利用できるようにすることで、利用者の利便性を損なわず、セキュリティを向上させていき、現場の営業マンのワークスタイルの向上に貢献していく予定だ。